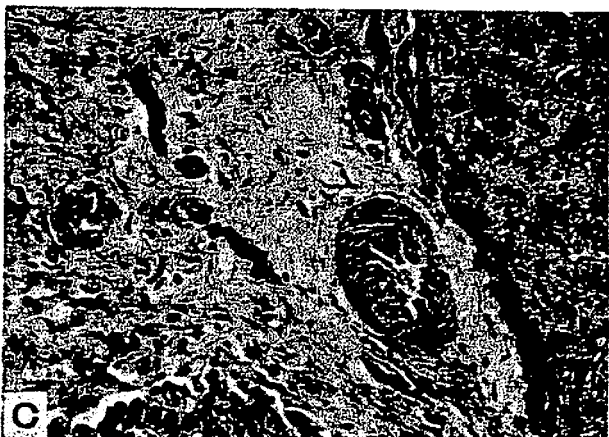
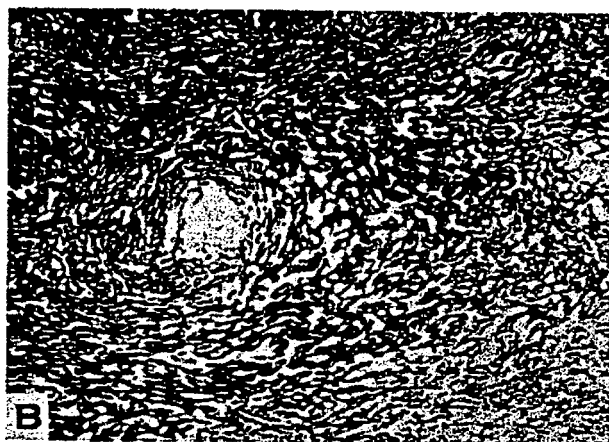


豚の肝線維症を伴った脾線維症

鹿児島大学農学部家畜病理学教室 第13回獣医病理研修会標本 No.195



鹿児島県串木野市プリマハム併設と場で、生体検査時、特別な臨床症状の認められなかったランドレース一代雑種、7カ月令、雌豚の解体後、内臓検査の際巨大な脾臓が発見されたものである。

肉眼的所見：脾は重量2.45kg、包膜は肥厚し、形状は脾頭、脾尾、脾門明瞭で脾臓全体が一様に腫大している。色は暗褐色、断面は硬固で血液少なく、汙胞は不明瞭、白色線状のものが無数に認められる。肝臓は2.5kg、灰黄色にして少々硬固で、その他の臓器は特に異常は認められなかった。

組織学的所見：脾の病変は写真A（H-E、染色、弱拡大）にみられる如くリンパ汙胞は萎縮顕著で、萎縮したリンパ汙胞は一見して腺状を呈し、それらの周囲は線維の増殖顕著で、赤脾髄迄および、赤脾髄はうっ血、出血がみられ、単核球様細胞にまぎって大型の好酸球も散

在している。写真B（鍍銀染色、弱拡大）で線維は格子状線維であることが判る。写真では区別出来ないが、周囲に拡がる線維は膠原線維が多い。

肝の所見はグリソン氏鞘に線維の増殖がみられ、増殖した線維間には写真C（H-E染色、強拡大）の如く、肝動脈、胆管のみは明瞭に見えるが、門静脈の内腔は狭窄している。中心静脈は拡張し、うっ血が存在していたことを示している。以上の脾と肝の病変は相互に密接な関係があり、原因については不明であるが、循環障害によることは確かであろう。

人における疾病で、肝線維症を伴った巨大脾の疾病としてバンチ症候群(Banti's syndrome)が知られ、成因について肝内性、肝外性の原因による門脈性高血圧を伴う症候群であるとする人が多い。今回みられた豚の病変はこの人のバンチ症候群にきわめてよく類似している。